

胃カメラ（上部消化管内視鏡）検査説明・同意書

説明医師 _____

【検査の目的と方法】

貧血や腹痛の原因を調べたり、潰瘍、ポリープ、癌などを診断するために内視鏡を鼻や口から食道、胃、十二指腸に入れて観察します。その際必要があれば病変の一部を採取して組織検査を行います。また出血している病変があった場合は止血などの処置を行うこともあります。

【検査に伴う副作用・偶発症】

使用する薬剤による副作用：検査の際には、のどの局所麻酔や胃腸の緊張をとるための鎮痙剤の注射をします。また苦痛を和らげるための鎮静剤や鎮痛剤を注射することもあります。これらの薬剤により稀に発疹、嘔気などの副作用が起こります。ごく稀にショック（血圧低下）などの重篤な副作用をおこすこともあります。また検査終了後に目の焦点があわなくなることがあるため車の運転はご注意ください。なお鎮静剤を使用した場合、検査当日は自転車、バイク、車の運転は出来ません。

検査手技に伴う偶発症：内視鏡検査や組織検査により、稀に出血や消化管の損傷、穿孔（消化管に傷がついたり穴があいたりすること）などの重篤な偶発症を起こすことがあります。

日本消化器内視鏡学会の全国集計では上部消化管内視鏡検査の偶発症の発生頻度4千人に1人程度と報告されています。稀に死亡例の報告もあります。検査後に吐血、下血、タール便（黒い便）や強い腹痛などがあった場合には、当院にご連絡下さい。万一、副作用、偶発症が起きた場合には最善の処置・治療を行います。

なお、組織検査を行なうにあたり、抗凝固薬・抗血小板剤を服用されている方は、薬の内容を確認する必要があります。飲まれている薬の内容によっては組織検査はしない観察のみの検査になる場合があります。

以上、了解された方は同意書にご署名の上、医師または看護師にお渡し下さい。同意が得られない場合は検査は行いません。

私は、食道・胃・十二指腸の内視鏡検査を受けるにあたり、検査の目的や方法、副作用・偶発症について十分理解した上で了解しました。

患者氏名 _____

代理人 _____

(続柄 _____)